

任意団体 日本・インドネシア水環境・衛生改善推進協議会

インドネシア国・西ジャワ州バンドン市の低所得者層コミュニティにおける汚水・汚泥の適正処理とリサイクル推進に向けたサステナブル・ナレッジハブ活動

イベントの 延べ参加者数	260人
助成活動がメディア に掲載された回数	10回
活動の全体目標 に対する達成度	80%



第1回WS参加者と全体撮影（バンドン市）

◆成果と工夫したポイント

●成果

バンドン市の関係者に向けた液肥の使用に関する利用方法と、地域住民のための食品廃棄物の分別排出の手引き書として、それぞれの冊子を作成。

●工夫

廃棄物分別や液肥利用に関わる市の関係部局や住民団体、農民団体の意見を面談やアンケートで事前に把握。

課題

バンドン市の河川汚染の原因となっている生ごみや、簡易浄化槽から排出される汚水・汚泥の管理を、低所得者層コミュニティをモデル地区として改善すること。

目標

分散型メタン発酵処理施設の導入のための基本調査を行ったうえで、同施設の運転管理に必要な「有機性廃棄物の分別排出方法」や「消化液肥の利用方法」の教育を関係者に行うこと。

活動内容

①市内河川の汚染源の実態把握 ②市の自然・経済・社会の条件に適した汚染源管理方法（メタン発酵処理）を提案 ③メタン発酵処理施設の運転に必要な「廃棄物分別排出」及び「副産物である消化液肥の使用普及」の方法を検討し、結果を冊子としてまとめ関係者に配布 ④メタン発酵処理のパイロット施設の整備に向けた基本調査（設置場所、収集区域等）を行い、既存の財政支援制度活用を前提とした施設整備計画を作成



千葉バイオガスセンターの見学を終えて

達成できなかったこと

対象地区の簡易浄化槽の管理状況が悪いことからメタン発酵処理施設の処理対象外にした。これについては、浄化槽の実態調査を本調査前に充分行っていなかったためと考える。

今後の展望

施設整備による環境改善に加え、廃棄物の分別排出や液肥利用の普及による市民の環境意識向上が期待できる。